

JF 日本語教育スタンダード

試行版

はじめに

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は1972年の創立以来、国際文化交流を通じて国際相互理解を増進するという目的の下、海外における日本語普及に資するべく、専門家を派遣、教師研修、教材制作等のさまざまな事業を展開してきました。近年、特に80年代以降顕著になったグローバル化の進展に伴い、世界の各地で日本の文化や社会に関心を抱き日本語を学ぶ人の数が飛躍的に増え、さらには学習ニーズも非常に多様化してきました。さまざまな方法やアプローチによる日本語の学習と教育実践が行われる一方で、日本語を学習する人も、教師も、日本語を学んで何ができるようになるのか、どのようなことを目標に教えていくのか、を考えるためのよりどころを必要としているのが今の実情ではないでしょうか。このような新しい状況に対応し、多言語化する国際社会の中に日本語を位置づけるために、国際交流基金は、「JF 日本語教育スタンダード（以下、JF スタンダード）」の構築に着手しました。JF スタンダードは、日本語教育・学習・評価について議論する際のひとつのよりどころであり、日本語教育の多様な現場の実情に応じて参照できる枠組みです。

現在、国境を超えた人の移動の速度と量は増加する一方で、多言語・多文化の状態がいたるところで見られるようになりました。そのような状況を踏まえ、国際交流基金はJF スタンダードの中心となる理念として「相互理解のための日本語」という考え方を提案します。価値観が多様化し、さまざまな人と人との接触や交流が拡大する社会では、互いに相手を理解し、関心や意見を伝え合う姿勢が大切です。この考え方では、日本語学習を教室の中に限定せず、広く社会の中で、生涯にわたる視点でとらえていきます。

以上の考え方に基づき開発され、2010年3月に公開予定のJF スタンダード第1版（以下、第1版）は、能力記述文データベース、ポートフォリオ・サンプル、事例集の3つから構成されます。

・能力記述文データベース：

JF スタンダードが開発する能力記述文は、社会生活におけるさまざまなコミュニケーションの場面（買い物をする、ニュースを聞いて理解する、人と知り合う、商談をするなど）で発揮される能力を「～ができる」という can do の形式で記述したものです。第1版ではそれをウェブ・データベースとして提供します。

・ポートフォリオ・サンプル:

ポートフォリオは、学習者が、言語の学習過程を自己評価し、異言語・異文化体験などを記録するものです。そして、日本語教育を通じて、言語能力だけでなく異文化理解能力をも育成するためのツールとなるものです。

・事例集:

JF スタンダードを、多くの教育現場の実践者の方々に活用していただけるように、海外日本語講座や教師研修での実践例、ポートフォリオの活用例など、国際交流基金内での取り組み例をまとめたものです。

これらは、さまざまな教育現場の実情に応じて取捨選択し、組み合わせたり加工するなどして利用していただくことができます。そして、今までの日本語教育の現場実践を見直したり、新たな日本語コースをデザインする際の参考にするなどの新しい可能性を考えたりすることができます。

この試行版では、JF スタンダードの理念と開発過程を報告します。開発の過程で行った先行研究レビューの結果と、国際交流基金内の日本語国際センター、ソウル日本文化センター、ケルン日本文化会館での共同研究の結果、そしてそこで利用された能力記述文とポートフォリオの例を紹介します。

JF スタンダードは、世界の言語教育の動向に目を向け、日本語教育に携る方々が自らの実践を見直し、デザインするための内省のツールであり、各現場の異なる状況を共通のことばで語り合うための対話のツールでありたいと思います。目まぐるしく変化する国内外の社会情勢の中で、日本語コミュニケーション能力の育成につながるような、より優れた教育を実践するために、JF スタンダードは各現場での状況やニーズに応じて柔軟に活用される汎用性の高い枠組みとなることをめざします。国際交流基金は、これからも引き続き第1版の公開に向けて教育現場との協働により、理論と実践のあり方を検証しながら開発を進めていきます。

2009年3月

国際交流基金 (ジャパンファウンデーション)



JAPAN FOUNDATION